

社 会

(公民的分野)

(5) 社会（公民的分野）

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 現代社会の見方・考え方を働かせながら、課題を追究したり解決したりする学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて、多面的・多角的に考察したことや、現代社会に見られる課題について公正に判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりするなど、言語活動に関わる学習のための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、学校図書館や地域の公共施設、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、生徒が主体的に調べ分かつようとして学習に取り組むための工夫 (4) 学習の過程や成果を振り返り、新たな問いを見いだしたりすることや、学んだことをもとに自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることができるような工夫 (5) 政治、法、経済などに関する基本的な概念や考え方を具体的な事例を通して学ぶ工夫 (6) 生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日的課題への配慮

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について 小集団での参加型学習「みんなでチャレンジ」を設け、話し合いなどの対話的な活動の機会を設定したり、現代社会の見方・考え方を活用して取り組む場面に「見方・考え方」のコーナーを設けたりして、より深い思考・判断ができるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕（P9、P15、P20、P41、P74等）</p> <p>●着眼点(2)について 各単元（章）の学習を、3段階の問いで構造化し、細かいステップで課題を解決していくことで、思考・判断した内容を、適切に表現する力を身につけられるようになっている。</p> <p>●着眼点(3)について Dマークや二次元コードがついている部分では、教科書P5に掲載した二次元コードやURLから、生徒のつまづきを補うシミュレーションや動画のコンテンツが提供されている。</p>	<p>●着眼点(4)について 「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の五つのテーマで、持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を「公民にアクセス」や「もっと公民」などで取り上げ、その解決に向けた構想ができるようにしている。</p> <p>●着眼点(5)について 領土をめぐる問題や地球環境問題など、我が国や国際社会が抱える現代的な諸課題を取り上げることで、その背景や経過に目を向けながら、解決策について具体的に考えられるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕（P184～185、P198～203等）</p> <p>●着眼点(6)について 見開き1単位時間の紙面の冒頭に、興味・関心を喚起する導入資料を大きく掲載することで、学習内容への興味・関心を高めながら円滑に学習に入るよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(7)について 小学校教科書に掲載した資料に「小学校マーク」を付したり、小学校社会科で学習した用語は、「小学校の社会で習った『ことば』」として掲載したりして、これまでの学習が振り返りやすくなるよう工夫されている。</p> <p>〔例〕（P37、P75、P127、P179等）</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 章の流れを内容のまとまりごとに導入ページ、本時ページ、特設ページ、学習のまとめと表現ページという構成とし、見通し・振り返りの学習場面を充実させたことで、主体的・対話的で深い学びを実現しやすい構成となっている。</p> <p>●着眼点(2)について 「言葉で伝え合おう」では、具体的な生活場面を設定し、ディベートやプレゼンテーションなど、表現スキルの習得を中心とした言語活動を取り入れた活動例が示されている。 〔例〕 (P68～P69、P122～123 等)</p> <p>●着眼点(3)について ウェブサイトを通して、学習に役立つさまざまな情報を見ることができる「まなびリンク」を章ごとに設け、一人一人の学びを広げるための情報や資料の収集に役立つよう配慮されている。</p>	<p>●着眼点(4)について 各章末に設けた「学習のまとめと表現」のページでは、各章で学んだ内容を振り返って整理したり、学習したことを活用して考察したりできるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(5)について いまだに残る差別の問題や、世界の民族や宗教をめぐる現状など、様々な価値観や文化とともに生きる人々の姿を多く取り上げ、世界の現状や課題を自分事としてとらえ、考察を深めやすくなるよう工夫されている。 〔例〕 (P204、P210 等)</p> <p>●着眼点(6)について 生徒が自ら地域の実態を探り、課題に取り組める工夫だけでなく、地域の伝統文化を大事にしている事例や、多文化共生が進む今の姿を取り上げ、そこから地球規模の課題へ視点を広げていくことができるよう工夫されている。 〔例〕 (P22～P23、P24 等)</p> <p>●着眼点(7)について 脚注部に「小学校、他分野、他教科との関連」や、「関連する SDGs」を適宜表示し、系統的・横断的な学習をしやすくするよう工夫されている。</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
46 帝国	<p>●着眼点(1)について 全4部を、各3段階で構成し、それぞれの中に問いと振り返りを設け、見通し、振り返りを積み重ねる工夫が見られる。また、各章の末尾の「章の学習を振り返ろう」で章の問いを自分なりに追究できるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について 特設「アクティブ公民」を設け、社会でみられる課題の解決に向けて、社会的な「見方・考え方」を働かせながら説明したり、議論したりすることで、学習した内容をさらに深められるようになっている。 〔例〕 (P23～P24、P33～P34等)</p> <p>●着眼点(3)について 「技能をみがく」コーナーでは、学習するうえで必要な基礎的技能を10テーマ紹介している。また、本文ページ中の各種写真・統計類において、「資料活用」の問いを設けており、習得した技能を、生徒自身が日頃から磨いていけるよう工夫されている。 〔例〕 (P24、P58、P71～P72等)</p>	<p>●着眼点(4)について 各章の末尾の「章の学習を振り返ろう」の右側のページでは、他の生徒が提示した視点を取り入れて自分自身の思考を多角化するプロセスに重点を置いており、協働の意義を実感できるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(5)について 「公民プラス」では、学習内容に関連する実社会の動きについて、25テーマ紹介し、具体的な事例を紹介することで、抽象的な概念を着実に理解できるよう工夫されている。 〔例〕 (P4、P10、P72、P114等)</p> <p>●着眼点(6)について よりよい社会を形成するための取組である「未来に向けて」や、社会に見られる課題に対する賛成・反対の意見例である「YesNo」などの紹介を行い、生徒の自主的・自発的な学習活動を喚起できるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(7)について 脚注部の「小学校・地理・歴史との関連、歴史を振り返る」において、小学校、中学校社会科の地理的分野・歴史的分野で学習した内容を確認できるよう関連用語が提示されている。</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について 本文では、学習課題の解決に向けての手がかりとなる「見方・考え方」コーナーを第2～4編の導入ページに設け、「アクティビティ」や「深めよう」などを通して繰り返し「見方・考え方」を働かせることができるように編集されている。</p> <p>●着眼点(2)について 「チャレンジ公民」では、生徒の発達段階を考慮し、争点を明確にして、ヒントとなる資料や思考の整理に効果的な図を示すなどの工夫をすることで、すべての生徒が議論に参加できるように編集されている。 〔例〕 (P74～75、P118～119等)</p> <p>●着眼点(3)について 情報を収集し、読み取り、まとめる際に必要となる技能や、情報リテラシー・情報モラルを育む教材として「情報スキルアップ」を設け、情報活用力の育成を図っている。 〔例〕 (P16～17、P60～61等)</p>	<p>●着眼点(4)について 社会参画を促すページとして特設ページ「明日に向かって」を設け、身近な地域の抱える課題を考える活動例を示し、生徒が将来について想像を膨らませて、社会参画への手がかりとなるよう工夫されている。 〔例〕 (P50～51、P96～97等)</p> <p>●着眼点(5)について 単元で学んだことを掘り下げて理解を深める「公民+α」では「ICTの活用」や「エネルギーの地産地消」などを取り上げ、現実の社会の課題を具体的な事例を通して学習できるよう工夫されている。 〔例〕 (P11、P15、P23、P57、P63等)</p> <p>●着眼点(6)について 登場する4人の生徒と2人の指導者の様々な場面での疑問や感想、提案等の発言を通して、学習する生徒が自らと同じ立場で感じたり、疑問をもったりできるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(7)について 脚注部に「連携コーナー」を設け、地理的分野・歴史的分野や小学校社会科で学習した内容も想起させながら学習を進めていくことができるよう工夫されている。</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
225 自由社	<p>●着眼点(1)について 各章末の「学習のまとめと発展」、及び終章のレポート、卒業論文、ディベート等において、生徒が、主体的に思考し、判断し、表現することによって、公民として必要な主体的、実践的な能力を伸ばしていくことができるよう工夫されている。 〔例〕 (P22、P42、P52、P64 等)</p> <p>●着眼点(2)について 終章末の「課題の探求」では、本教科書で学習したことを生かして、ディベートを通して議論の仕方を学習し、社会の中で生じる対立から合意を形成していく力が身につけられるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について 「レポートと卒業論文を作ろう」では、学校の図書室や公立図書館、インターネットでの活用について、検索までの手順や、実際に内容を引用する際の方法などが具体的に示されている。 〔例〕 (P214～P217 等)</p>	<p>●着眼点(4)について 学習の終末の「やってみよう」では、本時で学習したことを振り返り、実際の生活の中に位置付け、生徒が考えを深められるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(5)について 各章に設けられた「もっと知りたい」に、学習内容に関連するコラムを設けたり、児童の興味を喚起する「ミニ知識」を各単元に配置したりして、公民の重要語句や事柄を、具体例を通して効果的に理解を深められるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(6)について 各章末の「学習のまとめ」において、その章の最重要語句を置いた上で、「学習の発展」としていくつかの課題を設定し、生徒が自ら表現し、自ら考え、自ら答えていく学習ができるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(7)について 表紙巻頭見返しの「すごいぞ日本の技術は」では、小学校やこれまでの中学校生活の中でふれる機会があったと考えられる日本の先端技術の紹介を、導入部分に行うことで、公民分野の今後の学習について見通しやすくなるよう工夫されている。</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
227 育鵬社	<p>●着眼点(1)について 本文での学習を詳しく説明したり、関連する内容を取り上げたりした「学習を深めよう」というコーナーを設け、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。 〔例〕 (P11、P13、P19、P21、P23 等)</p> <p>●着眼点(2)について 「スキルアップ」において、発表や議論のしかた、ロールプレイング、ディベート、KJ 法、ランキングなど、様々な言語活動の技能を身につけられるよう工夫されている。 〔例〕 (P73、P76、P86、P112 等)</p> <p>●着眼点(3)について 「TRY!」において、教科書で紹介した学習資料について、考えたり調べたりする課題や、調べ学習を進めるための具体的な手立てなどを示しながら、生徒が調べ学習の道筋を理解できるよう工夫されている。 〔例〕 (P15、P19、P24、P60、P61 等)</p>	<p>●着眼点(4)について 公民的分野の学習内容と自分の人生や社会とのつながりを感じることができ、題材を充実させるとともに、物事を多面的・多角的に考察し、習得した知識・技能を実社会や実生活の中で活用できるような学習活動の例を示している。</p> <p>●着眼点(5)について 裁判員制度について、具体的な事例を取り上げ、実際の検察官の論告要旨や弁護人の弁論要旨をもとにして、裁判員になったつもりで評議する活動例を示すなど、体験的活動を取り入れながら、学習の理解が深まるよう工夫されている。 〔例〕 (P102～103 等)</p> <p>●着眼点(6)について 各章の導入に、その章の学習内容の趣旨を捉えさせる「〇〇の入り口」を設け、学習する内容へ興味・関心を促すよう工夫されている。 〔例〕 (P8～9、P36～37、P76～77 等)</p> <p>●着眼点(7)について 各章で学習することに関連した小学校での既習内容が、それぞれはじめのページで記載されている。また、地理・歴史と関連する内容については、それぞれのページで記載されている。</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称	総 ページ	(1)内容別配当の分量								(2)教材・資料等の分量												
		私たちが 現代社会		私たちが 経済		私たちが 政治		私たちが国際 社会の諸課題		文 献	図 版	写 真	統 計 資 料 (グ ラ フ 等)	年 表	読 み 物 資 料	イ ン タ ビ ユ ー	注 釈 ・ 用 語 解 説	表 現 活 動 例	見 方 ・ 考 え 方 の 例 示	学 習 の ス キ ル	二 次 元 コ ー ド に 類 す る も の	三 重 県 に 関 わ る 記 述
		現代社会が 生きている 文化の特色	現代社会を 捉える 枠組み	市場の 働きと 経済	国民の 役割と 生活	日本人 間の 尊重と 基本 的 原 則	民主 政治 と 政 治 参 加	福祉 の 増 大 と 人 類 の 目 指 し て い る 社 会	福 祉 の 増 大 と 人 類 の 目 指 し て い る 社 会													
2 東書	262	18	17	33	17	37	51	32	10	68	217	413	102	10	74	8	242	118	153	45	11	○
1 7 教出	272	14	10	39	23	46	42	35	7	48	191	426	125	5	70	3	371	111	105	34	7	○
4 6 帝国	246	16	10	50	14	38	42	18	14	63	204	299	116	7	64	16	292	111	83	24	22	○
1 1 6 日文	265	17	9	37	15	43	43	35	8	57	240	305	140	6	55	8	291	89	172	14	9	○
2 2 5 自由社	268	24	19	21	18	35	50	45	15	85	94	221	41	10	70	0	387	24	34	4	0	○
2 2 7 育鵬社	254	19	9	35	17	40	40	23	13	73	170	328	98	11	79	3	306	100	43	11	0	○

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> 針金綴じを用いて製本し、A B判を用いている。 グラフや地図などでは、文字に縁取りをしたり、凡例を使用せずに図中に直接示すようにしたり、グラフでは破線や点線を減らしたりしている。 ゴシック体のルビを採用し、視認性を確保しながら黒色を抑えている。
1 7 教出	<ul style="list-style-type: none"> 各ページが開きやすい綴じ方をしており、紙面スペースが広がっている。 色覚等の特性をふまえた、カラーユニバーサルデザインやレイアウト、表現方法、文字ユニバーサルデザインフォントなどの工夫がある。 本文ページの左上部に、学習の導入または中心となる資料を配置し、キャラクターの問いから学習を展開していく形式としている。
4 6 帝国	<ul style="list-style-type: none"> 従来よりも5%軽量化された用紙が使われている。 色数の多いグラフや地図は模様や線種、記号などが使用され、色以外でも区別できるようにしている。 各見開きのデザインは本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで整理されている。
1 1 6 日文	<ul style="list-style-type: none"> A B判を採用し、広くなる左右のスペースにグラフや各種資料を掲載している。 文字はユニバーサルデザインに配慮したフォント、ルビはゴシック体を使用している。 1単位時間で見開き2ページになるよう構成し、学習の基本構造をそろえている。
2 2 5 自由社	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の重要語句はゴシック体とし、重要語句はすべて教科書の最後にある索引に記載されている。 グラフや資料の文字を大きく設定し、視覚に特性がある生徒にも見やすいように配慮されている。 全体で72ある単元に番号を付し、単元の番号は教科書全体で連番になっている。
2 2 7 育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> 判型をA B判とし、図版や写真などの資料を大きく掲載されている。 ルビにはゴシック体を用い、小さな字が読み取りにくい生徒も読みやすいように配慮がされている。 見開き2ページの冒頭には写真やグラフを示し、授業の導入に扱えるよう、基本構造をそろえている。

3 その他

		今日的課題への配慮
2	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙裏に見開きでSDGsについて掲載したり、「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つのテーマを示したりして、持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を捉えられるようになっている。 ・「平和主義の意義と日本の役割」において、沖縄におけるアメリカ軍基地の現状の課題について、写真・地図・文で紹介したり、憲法9条を引用しながら、広島市の平和記念式典の様子を写真で示している。また、領土にかかわる記述として、「国際社会のしくみ」において、国家は国民、領域(領土、領海、領空)、主権の3つの要素がそろって成り立つと明記されている。また特集で、竹島、北方領土、尖閣諸島を日本固有の領土と示した上で、本文にてそれぞれのテーマを設定し、平和な国際社会に向けて、日本や一人一人が果たすべき役割について考えられるようになっている。 ・主権者教育に関わって「18歳へのステップ」という特集で、成人年齢の満18歳以上への引き下げへの対応として、消費者教育にかかわりのある契約についてと選挙権について、それぞれ見開きページで紹介し、数年のうちに成人年齢を迎える生徒に、意識づけの効果がある説明を行っている。 ・各章末の「まとめの活動」では、生徒が身近に考えられるテーマを設定し、道徳科との関連を図る学習が設定されている。 ・三重県のことについては、伊勢志摩サミットの様子と高校生レストランについて写真で紹介されている。
17	教出	<ul style="list-style-type: none"> ・目次の手前のページに、見開きでSDGsについて写真と文章で掲載している。また、本文中には、17の視点を確認できるように下部に位置づけたり、終章においては「私たちが未来の社会を築く」というテーマでSDGsを扱ったりしており、SDGsが本書を貫くテーマであることを示している。 ・「日本の領土をめぐる問題」において、国家は国民、領域(領土、領海、領空)、主権の3つの要素がそろって成り立つと明記されている。また、竹島は韓国による、北方領土はロシアによる不法占拠、尖閣諸島については中国による領海侵犯と、その状況について本文中で説明している。 ・主権者教育については、「私の提案『自分を変える、社会を変える』をつくろう」というテーマを設け、これからの社会を築いていくために、自分には何ができるのかを考え表現する学習について、提案の手順を示しながら、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うようにしている。 ・「言葉で伝え合おう」では、ディベートを取り上げ、道徳科との関連を図った学習課題が設定されている。 ・三重県のことについては、裏表紙裏に、SDGsに関わって、鈴鹿で行われたアフリカの食糧支援のための田植えの様子を示した写真が掲載されている。
46	帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・最終の第4部「国際」では、「『持続可能な社会』を目指していくために」という教科書全体を貫くテーマを設け、SDGsを意識したつくりとなっている。SDGsの意義や、達成に向けた取り組みの現状についての解説を通じて、社会の持続可能性を高めることの重要性を理解し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしている。 ・第2部「政治」では、参政権や選挙制度などの単元において、18歳選挙権について、解説している。18歳になった高校生が投票する様子を収めた写真を掲載することで、生徒たちも投票する場面が近づいていることを理解し、政治参画の意識を高められるようにしている。 ・第2部で扱う日本国憲法における平和主義の意義をもとにして、「国際社会における日本の役割」において、平和主義に基づく日本の国際協力について、ODAやPKOといった具体例を示しながら説明している。また日米安全保障条約の付属の資料として、沖縄の米軍基地問題を、写真や地図、文章で説明している。 ・「アクティブ公民」では、生徒同士の価値判断に迫る活動として、ディベートやロールプレイングの技法を取り入れながら、対立と合意を念頭に置いた活動例を提示している。 ・三重県のことについては、四大公害の一つとして四日市ぜんそくが取り上げられ、一覧で表の資料として掲載されている。
116	日文	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて、巻頭見返しにて、17の目標を示すとともに、関連する内容を第1編から第5編までの学習の随所に登場させ、全体を通して考えられるようになっている。 ・日本の領土をめぐる問題については、北方領土、竹島、尖閣諸島について、日本固有の領土であるとした上で、北方領土、竹島については、未解決の問題が残されていること、尖閣諸島には解決すべき領有権の問題はないとした上で、「公民+α」で、それぞれの状況について、写真とともに、説明資料が添えられている。 ・主権者教育に関わっては、成人年齢引き下げの新聞記事や、投票率の低下を扱った資料などで政治参加への関心を深め、知識を得られる教材を配置し、三権分立と政治参加に関わる資料や自立した消費者をめざす内容など、現代の社会の課題について考えを深める資料を配置した上で、課題の解決に向け判断を行う教材として「社会保障のあり方を考えよう」という課題を配置する3段階で取り上げている。 ・各編の冒頭に、「学習の始めに」という項を設け、生徒が身近に考えられる道徳科との関連が図られた内容が多く漫画で取り上げられ、その後の学習への動機づけとなる扱い方をしている。 ・三重県のことについては、伊勢志摩サミットで伊勢神宮を訪れた際の各国首脳の写真や、四日市ぜんそくに関わって1960年頃と現在の四日市の様子を示した写真が紹介されている。
225	自由社	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを本書の根幹のテーマとし、第1～5章までの学習のまとめの章と位置づけられる終章に「持続可能な社会を目指して」という項を置いている。 ・日本の領土をめぐる問題については、北方領土、竹島、尖閣諸島について、日本固有の領土であるとした上で、北方領土、竹島についての2つの領土問題があること、中国が尖閣諸島の領有権を主張している状況にあることを本文中で説明している。また「もっと知りたい」において、それぞれの状況について、写真とともに、説明資料が添えられている。 ・主権者教育については、本文の中で「選挙権は満18歳に達した国民に与えられている」とした上で、「もっと知りたい」において「選挙制度と政治参加」をテーマに取り上げ、近年の選挙における低投票率の問題や選挙制度の変更などの説明を行い、生徒が考える契機としている。 ・各章に設けられた「アクティブに深めよう」では、身近な「まちづくり」をテーマに取り上げ、その中で生徒の価値判断をもとに、グループで話し合い活動をしながらか、合意形成を図る活動を設定している。 ・三重県のことについては、「もっと知りたい」の「宗教とは何だろう」の項の中で、伊勢神宮について、文章と写真で紹介されている。
227	育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて、巻頭見返しにて17の目標を示すとともに、第5章において章の初めに「国際社会の入り口」を設け、SDGsにかかわる全体像を示した上で、章の終わりに「国際社会のこれから」で生徒に課題を投げかける形で具体的な事例を取り上げ、17の目標と対照させることでSDGsを意識させながら学習を進められる紙面となっている。 ・日本の領土等に関わる問題については、竹島、北方領土、尖閣諸島を日本固有の領土と示した上で、日本の領土を示した大きな地図を掲載し視覚的に位置などを確認しやすくした上で、直面している問題としてそれぞれの状況を本文にて述べるとともに、「学習を深めよう」においても、それぞれの歴史的経過について年表をもとに時系列で丁寧に説明を加えている。 ・主権者教育については、参政権の学習の単元において、18歳になった高校生が投票する様子の写真を掲載したり、各章の冒頭に「〇〇の入り口」という項を設け、政治への参画や消費生活、経済活動など具体的な事例を多く示し、主体的に社会の形成に参画する態度の育成を図ろうとする工夫が見られる。 ・「学習を深めよう」では、実際に起こった出来事を新聞記事などで紹介しながら、道徳科との関連が図られた教材を取り上げている。 ・三重県のことについては、巻末に伊勢神宮の写真が紹介されている。